

15. 雨よけ栽培トマトにおけるオンシツツヤコバチと選択的殺虫剤を併用したオンシツコナジラミの防除（技術）			
[要約] <u>選択的殺虫剤</u> と導入寄生蜂 <u>オンシツツヤコバチ</u> や <u>土着寄生蜂</u> の併用により、殺虫剤の種類及び散布回数が低減され、雨よけ栽培トマトの主要害虫である <u>オンシツコナジラミ</u> が防除できる。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543

## [背景・ねらい]

雨よけ栽培トマトのオンシツコナジラミに対して、オンシツツヤコバチと選択的殺虫剤を併用した省力的で環境に優しい防除法を検討する。

## [成果の概要・特徴]

1. オンシツコナジラミ発生初期（6月）からのオンシツツヤコバチ放飼と選択的殺虫剤使用を併用した区では、殺虫剤の種類を慣行防除区の3分の1、散布回数を慣行防除の6分の1程度まで削減できた（図1）。両区ともオンシツコナジラミの増加に伴いすす病が発生したが、オンシツツヤコバチを利用した方が慣行防除より被害が少なかった。また、選択的殺虫剤の使用により、9月以降に増加する土着寄生蜂が温存され、オンシツコナジラミ防除に活用できた。

2. オンシツツヤコバチ放飼と選択的殺虫剤を併用した区では、ラノーテープと選択的殺虫剤を併用した区と同程度にオンシツコナジラミ密度が抑制できた（図2）。

以上の結果から、選択的殺虫剤とオンシツツヤコバチや土着寄生蜂の併用により、殺虫剤の種類や散布回数が低減され、オンシツコナジラミが防除できる。

## [成果の活用面・留意点]

1. オンシツツヤコバチを利用すると、化学合成殺虫剤（ラノーテープ含む）による害虫の抵抗性発達の問題がない。
2. 土着寄生蜂は環境により生息している種類および発生量が異なる。
3. 高温期にはオンシツツヤコバチが活動しにくいため、オンシツツヤコバチ放飼後から7月にかけては、選択的殺虫剤でオンシツコナジラミの密度を低く抑える。

[具体的データ]

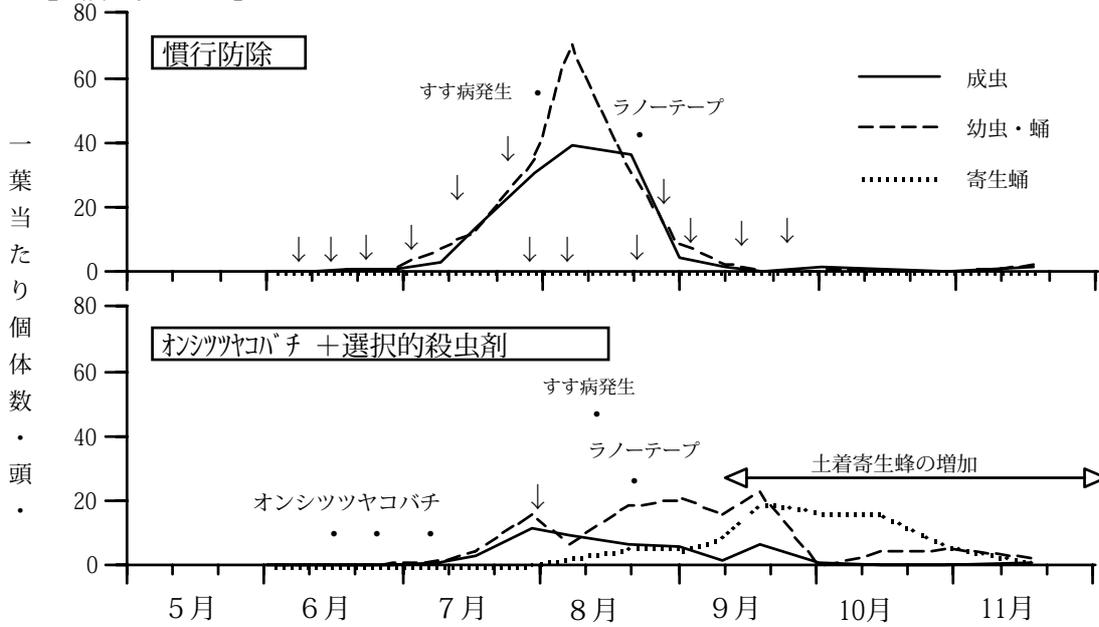


図1 慣行防除区およびオンシツツヤコバチ+選択的殺虫剤区における  
オンシツツヤコバチ各ステージの発生消長 (平成11年)  
↓: コナジラミ類に効果のある選択的殺虫剤

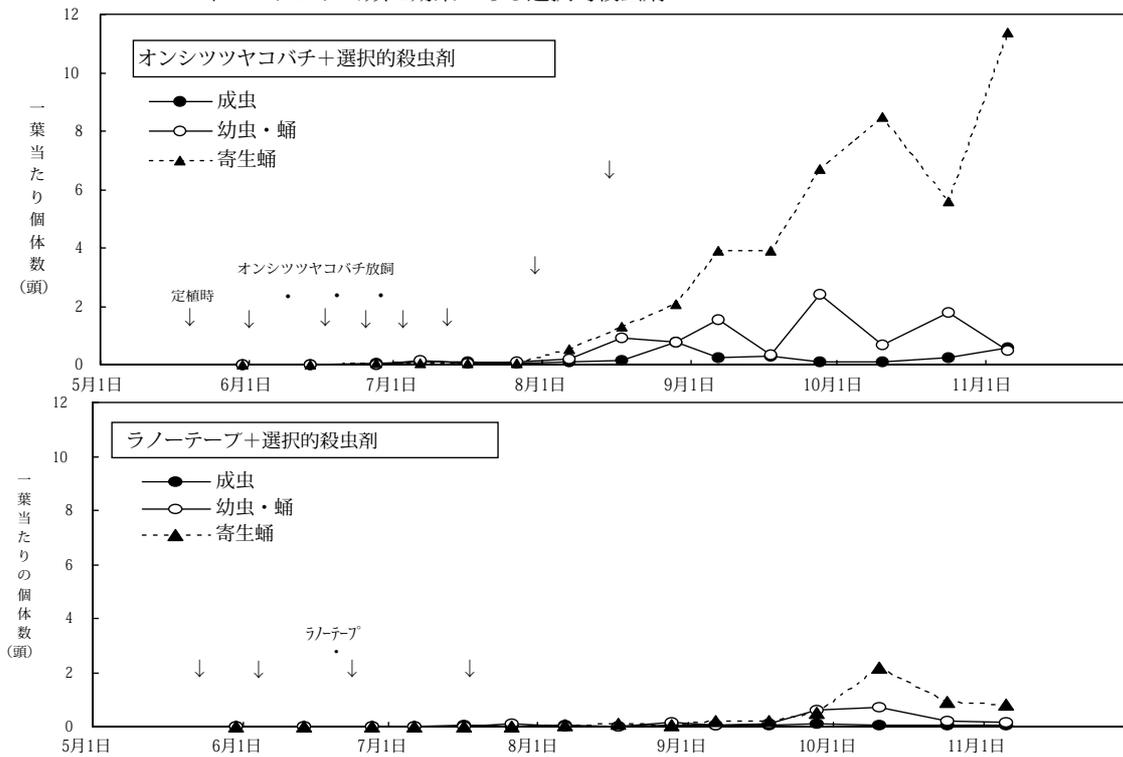


図2 オンシツツヤコバチ+選択的殺虫剤区およびラノーテープ+選択的殺虫剤区における  
オンシツツヤコバチ各ステージの発生消長  
↓: コナジラミに効果のある選択的殺虫剤 (平成13年)

[その他]

試験研究課題・事業名：環境に配慮した特産野菜の長期安定生産技術の確立

予算区分：国補

研究期間：平成9～13年度

関連情報等：なし